

# 県道菖蒲高原線、林道牛ヶ鼻浦田線など早期復旧を 日本共産党上越市議団が県庁で担当部に強く要請

日本共産党上越市議団は6日、新潟県庁に出向き、長野県北部地震の被害対策について県庁の関係課長などに要請してきました。要請にあたっては、竹島良子県議（長岡市区選出）に同席していただきました。

私たちが要請した事項は、①被災者生活再建支援制度の拡充と県単独事業の創設、②県道、林道の早期復旧です。このうち、①に関しては、時間の関係で日本共産党新潟県委員会から夕方、働きかけてもらいました。被災者生活再建支援制度に関しては、上越市の場合、大島区で住家の全壊が2棟ありながら、適用基準に満たないために適用外となっています。中越沖地震等と同様の支援を県として行っていただきたいと要請しましたが、県防災局は、具体化に向けて検討していると答えたとのことです。

内の県道菖蒲高原線、林道牛ヶ鼻浦田線（写真下）、基幹林道菱ヶ岳3号線の3路線です。私の方から、現地調査に基づいた説明をし、県道については「地元からも強い要望がある」と早期復旧を求めました。また、林道については、災害復旧計画案作成時や、災害査定時の支援など市への援助を強め、早期復旧のために尽力を要請しました。

県道菖蒲高原線について、折笠土木部参事（道路管理課長）は、「私どもとしては国に働きかけて、その地域の実情にあった運用をお願いしてきた。雪が解けて、災害の事実を確認してから随時報告を上げるという形になっている。県道菖蒲高原線は、いま路面にひび割れが入っていて、舗装をめぐってやり直せばいい程度か、それとも下から崩れているかによって工法が違ってくる。災害査定がきょうからはじ

まった。6月20日頃から上越東事務所管内に入る。県道菖蒲高原線は、いまのところ、7月19日からの週の予定となっている。それさえ済めば、8月には発注という格好にできるとみている。いずれにしても、早期復旧は全く同感であり、こういったなかで極力スピード上がるようにしていきたい」と前向きでした。

林道牛ヶ鼻浦田線、菱ヶ岳3号線に関しては、土田農林水産部参事が対応。同参事



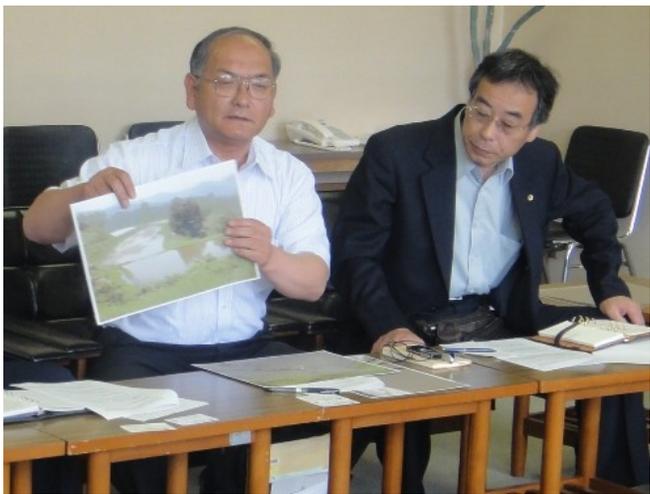
シリーズ 上越市内の橋 第68回 臼谷橋

「臼谷橋」と書いて「うすたにばし」と読みます。先日、紹介した正善寺ダムの近く、市道上正善寺上綱子線上

にあります。谷間の橋で、小鳥たちのさえずりがよく響きます。また、赤い欄干が目を引きま

橋の長さは約15メートル。竣工は1982年（昭和57年）11月です。

は、「じつはまだ雪が多くて、全部の被害が確定していない。上越市の林道被害は相当額になるが、この2つの路線でほとんどを占めている。できるだけ早く対応していきたいと思う。特に牛ヶ鼻浦田線の方を急ぎたいと話をしていただいている。私ども局のサポートを万全にさせていたいただいて、測量が終わったあとのいろんな工法とか、そのへんについても、連携しながら、一日も早く着手できるように協力をさせていただきます」とのべました。



林道牛ヶ鼻浦田線、菱ヶ岳3号線に関しては、土田農林水産部参事が対応。同参事



いま、話題のパンフレットです。1部150円。お申し込みは橋爪の携帯電話まで。お届けします。

母は二年ほど前に重いめまいの症状が出て、その後は、三ヶ月に一回くらいの割合でお医者さんに診てもらっています。いつもは長女か弟に送迎や付き添いを頼むのですが、先日、体があいていたので久しぶりに母を病院まで連れて行ってきました。

午前九時からの予約というふう聞いていたのですが、八時過ぎに家を出発しました。定期検査をする病院は、私の軽自動車で行くと、片道で三〇分ほどかかる距離にあります。でも、この日は、母とのおしゃべりがはずみ、とても短く感じました。

病院に着いてからは、予約の確認に始まり、眼科での受付、診察、検査と続きました。予約の時間はこちらで勝手に思い込んだ九時ではなく、九時半でした。待ち時間を利用して、「しんぶん赤旗」の朝刊をゆっくり読むことができました。

この日、母の予約は眼科の他に脳神経外科もとってありました。こちらは午前一〇時から。眼科の方で思っていた以上に手間取り、一〇時をまわりました。困ったなど思っていたのですが、先に診察する科で時間がかかった場合についての暗黙の了解があるのでしょうか、脳神経外科の窓口へ行っても快く受け付けてもらえました。

脳神経外科の診察では、母と一緒に私も診察室に入りました。じつは、この日の朝、母は起きた途端にパタンと倒れ、トイレに這(は)って行ったということがあったのです。しばらく休んで、ある程度回復したとはいうものの、この点が気がかりでした。母の説明で不足があった時には、私の方から話をしようと思っていました。

担当は二年前と同じ若いお医者さん。診察をされている時は病状についてズバズバ言い、判断が早いのでいつも感心しています。朝の出来事を私の方から説明すると、「はい、お母さん、きょうは何月ですか？」

「六月です」  
「そうですね。いつもこうなったときには診療所へ行っているのですか」  
「はい、そうです。そこで点滴してもらっています」

「二時間ほどかかりますが、今回も点滴しましょう。心配はいりませんよ」  
母とお医者さんのやりとりは、こんな調子です。  
この日も担当のお医者さんは、母の顔をしっかりと見つめ、テキパキと対応してくださいました。

診察の様子を見ていて、二年前もこうだったなと思ひ出しました。母が初めてこの病院の脳神経外科にかかったのは、父が他界して、まだ一ヶ月くらいの時でした。あの時はかなり具合が悪く、「今度は母の番かな」と心配したものです。

あの時、レントゲン検査を終え、再び診察室に入ると、結果は異常なし。そして、お医者さんはこう言われたのでした。「このおばあちゃんには年の割に元気、元気がちよつとやそつとではまいらないよ、という顔をしている。仕事のし過ぎでしょう」話を元に戻しましょう。点滴を終えたばかりの母の顔を見ると、だいぶ元気を取り戻していました。「どうだね、眠ったかね」とたずねたら、「ぜんぜん眠らんねかった」。なんと、ずつとトイレを我慢していたというのです。

病院を出た時、母はしわくちゃな顔で笑いながら、私に頼みました。「とちや、おまん、金持ってるかね。あつたら、あるるん畑(農産物直売所)に連れてつてくれ。おら、もち米の粉、欲しいがど」。点滴したばかりだというのに、もう仕事のことを考えているのです。いやはや、まいったね。

### 林道、林業用施設の災害復旧費 4億4300万円にも

9日から6月定例議会の常任委員会審査が始まりました。初日の文教経済常任委員会で注目したのは、長野県北部地震に伴う農地、農業用施設、林道、林業用施設の災害復旧費です。これまで専決処分されたものを含め、復旧に要する予算額が明らかにされました。



まず、農地、農業用施設災害復旧費ですが、用水路、農道、農村公園、農業実習交流センターなどで174件、9施設の災害復旧に要する経費は1億2063万円ほどになります。(写真は大島区牛ヶ鼻地内の田んぼ)

次に、林道、林業用施設の災害復旧費ですが、林道被害の復旧費は予想通り大きな金額になりました。公共災害復旧事業は安塚区の坊金高山線、大島区の牛ヶ鼻浦田線など7路線(2464m)、3億9266万円です。測

量、設計と進むとさらに復旧費は増えていくかも知れません。菖蒲高原のゲストハウスなど7施設の災害復旧費は2838万円計上されています。林道、林業用施設の災害復旧費全体で、4億4300万円にもなりました。

質疑の中ではわが議員団の上野公悦議員が、現地調査を踏まえて県に早期復旧に向けて支援を求めたこと、被災地ではいつときも早く復旧を求めていることなどを訴えました。

### 市道災害復旧費は大賀線など 11路線で1億454万円計上

13日に開催される建設企業常任委員会に向けて、市道関係の災害復旧費のデータも公開されました。

11路線で災害復旧工事が行われる予定で、いまのところ、復旧費は1億454万円です。

主な路線は、安塚区の細野上達線、須川中船線、大島区の棚岡東線、菖蒲南線、清里区の赤池上牧線、吉川区の大賀線(写真)などとなっています。

